

おちゃわん通信

第 28 号 20180925

Re-食器という価値観



食器リサイクル全国ネットワーク

代表 江尻 京子

食器の裏に Re-食器であることがわかるマークがついているものとそうではないものがあります。製造や販売する側にとってはマークを付けることが商品に関するメッセージになり、消費者にとっては、購入する時の商品情報になると私は考えます。

回収した食器を原料の一部に使用して製造した食器の総称を Re-食器と呼んでいます。販売の場に「これは Re-食器です」という説明書きがあったとしても、食器そのものに付いていなければ、使用段階で一般の食器と同列のものになってしまいます。それは、消費者には、手にした食器を見たり、触ったりしても判断がつかないからです。

私がセンター長をしているエコにこセンターでは、多くの人達に Re-食器の存在を知ってもらい、食器リサイクルについて話題にしてもらおうきっかけとなることを期待して、Re-50(回収食器 50%含有)や Re-20(回収食器 20%含有)の食器を展示販売しています。

エコマークや Re-食器であることがわかるマークがついていると、私たちが多くを語らなくても、納得して購入していきます。しかし、無地のものについては、「これは Re-食器ではないの?」「なぜマークがついていないの?」と聞かれることがあり、「せっかく使うなら、マークがついているものがいい」と Re-食器であることに価値を感じている人が年齢性別を問わず、最近目立っています。

多くではありませんが、食器棚の食器を総入れ替えするために不用になった食器を回収に持って来る人がいます。先日、せっかくリサイクルに出したのだから、Re-食器を使いたいという女性と話すチャンスがありました。彼女は「このマークがあるとホッとするといい」と言いながら、Re-50の食器をあれこれ楽しそうに選んでいました。

また、「エコマークがついているね」と会話していた親子は Re-20の花柄の食器を購入していきました。

Re-食器という価値観を作り手と使い手がマークを通して共有できるのではないかと、もっと作り手は、メッセージを伝えるべきではないかと思うこのごろです。

おちゃわん通信第28号掲載記事一覧

- 地球のかけらプロジェクト
- 低炭素杯 2018 優秀賞受賞、そして活動休止
- おちゃわんリユース
- リユース可能な陶磁器食器のみ回収
- こうさくの時間“陶芸”のお知らせ
- 食器リサイクル全国ネットワーク会員募集